

先行事例にみる研究データエコシステムの の可能性とこれから

国立情報学研究所

オープンサイエンス基盤研究センター 主任学術基盤研究員
研究データエコシステム構築事業推進センター PM

中野 恵一

研究データエコシステム北海道コンソーシアム設立シンポジウム
2025年8月28日

アウトライン

1. 事業概要と取り巻く環境

- 「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」の全体像
- オープンサイエンス政策・即時オープンアクセス義務化などの動向

2. 事業の実施体制とシステム構造

- 中核機関・共同実施機関による役割分担
- System of Systemsとしての構造、NII RDCの位置づけ

3. ユースケース創出と分野横断的展開

- 採択課題の事例紹介
- 人文社会科学から理工・医療分野までの多様な連携と成果

4. スタートアップ支援・各地の多様な取り組みへ

- データポリシー策定支援、人材育成、コミュニティ形成

5. 今後の展望

- AI活用の進化へとつながる研究データ基盤の役割

AI等の活用を推進する 研究データエコシステム構築事業（2022～2026年度）

- 我が国の研究力の飛躍的发展を図るため、各分野・機関の研究データをつなぐ全国的な研究データ基盤の構築・高度化・実装等と、AI解析等の研究データ基盤の活用に資する環境の整備を行う、研究DXの中核機関群を組成し、その活動成果を統合した“研究データエコシステム”を構築する

●全国的研究データ基盤の構築・高度化・実装とデータの利活用

- ユーザーニーズを踏まえながら、研究データの管理・蓄積・利活用・流通といった点で適切かつ実用的な機能を確保した全国的な研究データ基盤を整備し、AI活用・データ駆動型研究を推進
- 構築が進む各機関・各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続

●研究データ基盤の活用に係る環境の整備

- 効率的なAI活用のための、機械可読データの統一化や標準化等を含めたルール・ガイドライン整備、データマネジメント人材育成支援等、ユーザー視点に立って研究データ基盤を最大限に活用するための環境整備

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業

令和7年度要求・要望額
(前年度予算額)

11億円
11億円)



背景・課題

- ポストコロナの原動力として「デジタル」「AI」が最重要視され、データ駆動型研究やAI等の活用による大量の研究データ分析が世界的に進展している中、大規模かつ高品質なデータの利活用の推進を、様々な分野・機関を超えて進めていくことが鍵。
- 我が国でもオープン・アンド・クローズ戦略に基づき全国の研究者が、分野を問わず必要な研究データを互いに利活用することで、優れた研究成果とイノベーションを創出していく環境の整備が急務。
- 昨年に引き続き本年7月開催のG7科技大臣会合でも、オープンサイエンスを進める旨の共同声明が出されており、研究データ利活用は世界的な潮流。

本事業で解決する課題

- ✓ 様々な研究データの利活用が、研究者の負担なく円滑に促進されるよう、研究データ基盤の高度化（他機関連携も含む）を進める。
- ✓ 適切な研究データの管理・公開、分野・機関横断的な検索といった研究データ管理・利活用が持続的に行われる仕組みを構築。
- ✓ 各研究機関が、オープンサイエンス・オープンアクセスの世界的な潮流に対応していくための体制整備にも貢献。

【G7ホローニャ科学技術大臣会合 共同声明】（令和6年7月9日-11日開催）

- ・ 公的資金による学術出版物及び科学データへのオープンで公共的なアクセスを含む、科学的知識及び適切な研究成果の公平かつ責任ある普及を通じてオープン・サイエンスを拡大するため、G7メンバー間及び国際的な科学コミュニティ全体の協力を促進する。

【学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針】

（令和6年2月16日統合イノベーション戦略推進会議決定）

- （4）研究成果発信のためのプラットフォームの整備・充実
- ・ 研究成果を誰もが自由に利活用可能とするための発信手段として、研究データ基盤システム（NII Research Data Cloud）、その他のプレプリント、学術論文等の研究成果を管理・利活用するためのプラットフォームの整備・充実に対する支援を行う。

必要な取組（事業期間：令和4年度～令和8年度）

① 全国的な研究データ基盤（NII RDC※）を高度化

- ・ 研究者が研究により時間を割くことが可能となり、研究データ利活用が促進されるよう、管理データの取捨選択・メタデータ付与、データの出所・修正履歴の管理など、研究データ管理に係る関係者の作業負担を軽減するための機能等を開発

※NII-RDC（Research Data Cloud）：研究データサイクルを支える3つのシステムにより構成
管理基盤（GakuNin RDM）、公開基盤（JAIR Cloud）、検索基盤（CiNii Research）

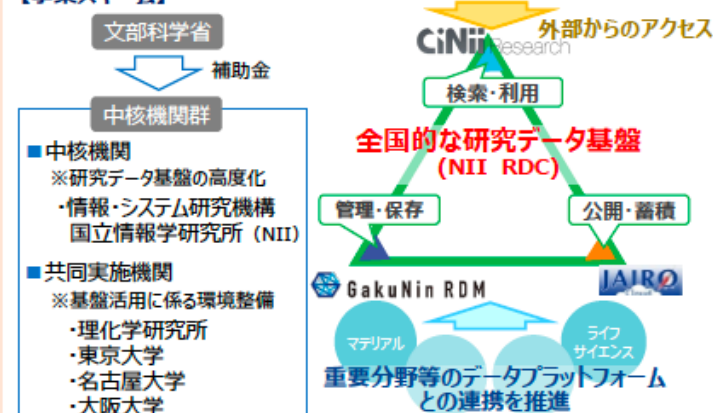
② 研究データ基盤の活用を促進するための環境整備

- ・ 全国の研究者が統一した基準でデータ管理できるよう、機械可読データの統一した記述ルールやデータ管理・公開ガイドライン整備、データマネジメント人材育成支援、各機関の研究データ基盤との連携等を実施

③ オープンアクセスの推進に向けた機能強化等

- ・ オープンアクセス推進に向けて、全国の様々な分野・機関の研究者にとってNII RDCがより使いやすい環境となるよう、ユーザビリティ機能充実、研究成果・研究者情報に係る外部システム等との連携強化、オープンアクセス関連調査等を実施

【事業スキーム】



（担当：研究振興局参事官（情報担当） 付） 12

オープンサイエンス時代の 研究データ基盤構築に向けた国内の政策的経緯

- 2015年3月：内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書
- 2016年1月：政府「第5期科学技術基本計画」
- 2016年2月：文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会「学術情報のオープン化の推進について」
- 2016年5月：G7茨城・つくば科学技術大臣会合 つくばコミュニケ（共同声明）
- 2016年5月：政府「科学技術イノベーション総合戦略2016」
- 2016年7月：日本学術会議「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」（提言）
- 2017年6月：政府「科学技術イノベーション総合戦略2017」
- 2018年6月：政府「統合イノベーション戦略」
- 2019年6月：政府「統合イノベーション戦略2019」
- 2020年6月：日本学術会議「オープンサイエンスの深化と推進に向けて」（提言）
- 2020年7月：政府「統合イノベーション戦略2020」
- 2021年3月：政府「第6期科学技術・イノベーション基本計画」
- 2021年4月：政府「公的資金による研究データ管理・利活用に関する基本的な考え方について」
- 2021年6月：政府「統合イノベーション戦略2021」
- 2022年6月：政府「統合イノベーション戦略2022」
- 2023年5月：G7科学技術大臣会合
- 2023年6月：政府「統合イノベーション戦略2023」
- 2024年6月：政府「統合イノベーション戦略2024」

統合イノベーション戦略2023（2023年6月）

（公的資金による研究データの管理・利活用の推進）

「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」（令和3年4月27日統合イノベーション戦略推進会議決定）において、公的資金による研究データに関する概要情報（メタデータ）を**中核的な基盤である研究データ基盤システム（NII Research Data Cloud）**上で検索可能とし、オープン・アンド・クローズ戦略に基づく研究データの管理・利活用を推進するビジョンを示した。ここでは、公募型の研究資金の全ての新規公募分についてメタデータ付与を行う仕組みを2023年度までに導入するとともに、大学等の研究開発を行う機関においてデータポリシーの策定と機関リポジトリへの研究データの収載等を進めることとしている。…また、**2022年度に開始された「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」**において、引き続き各分野・機関の研究データをつなぐ全国的な研究データ基盤の高度化や、研究機関・研究者に対する研究データ基盤の利活用に向けた普及・広報活動を推進する。

（学術論文等のオープンアクセス化の推進）

また、本年5月に日本で開催されたG7広島サミット及びG7仙台科学技術大臣会合を踏まえ、我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの**学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定**する。

オープンアクセス加速化事業 公募要領概要

令和5年度補正予算額 100億円

目的等

2025年度から新たに公募を行う競争的研究費制度による学術論文及び研究データの即時オープンアクセスの義務化を見据え、オープンアクセスに係る全学的なビジョン（オープンアクセス方針・研究データポリシー等）に基づく事業計画等を策定している大学等を対象として、研究成果の管理・利活用システムの開発等の支援を行い、各大学等の即時オープンアクセスに向けた体制整備・システム改革を加速させることを目的とする。

事業内容

- 対象機関 国公立大学及び大学共同利用機関（申請者：機関の長）※共同申請も可
- 各大学等のビジョンに基づく即時オープンアクセスに向けた体制整備・システム改革に係る以下の経費を支援
 - ① 機関リポジトリ等のシステム開発高度化等
（システム全般、学内外データベース等連携システム、リポジトリ登録支援システム、研究データストレージ等）
 - ② オープンアクセス支援策（戦略的なAPC支援等）、③ オープンアクセス関係経費（旅費、謝金等）
 - ④ 各種環境整備（図書館等業務効率化に係る整備、広報活動費、リポジトリ等運営費 等） 等
- 大学の規模等に応じて3つの申請区分を設定

申請区分

- ・区分1 1件 2～6億円程度
- ・区分2 1件 1～2億円程度
- ・区分3 1件 5千万円程度～1億円程度

採択予定数

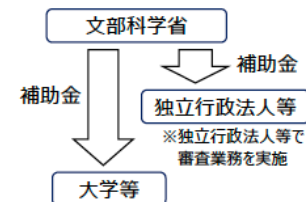
※申請数や申請規模により変動

- ・区分1は10件程度
- ・区分2と区分3合わせて40～50件程度

支援期間

- ・交付決定日～令和7年3月31日

【事業スキーム】



審査の観点等

- 各大学等の即時OAに係る構想の具体性、有効性、実現可能性等を以下の観点で審査
 - ・各大学等が目指すビジョンが示され、OA化に向けた具体的計画や目標値がクリアか
 - ・全学的なマネジメント体制が構築され、戦略的なOA化システム開発・支援策が実行されるか
 - ・事業期間終了後も自立的・継続的な取組が期待できるか 等

オープンアクセス加速化事業 採択機関一覧

(令和6年7月5日現在)

NII RCOS
Research Center for Open Science and Data Platform

採択83件 (申請93件)

区分別内訳

区分1: 15件 (申請目安: 2~6億円程度)
区分2: 28件 (申請目安: 1~2億円程度)
区分3: 40件 (申請目安: 5千万円程度~1億円程度)

機関別内訳

国立大学: 53件
公立大学: 5件
私立大学: 20件
大学共同利用機関: 5件 ※法人含む

区分1			区分2			区分3					
NO.	種別	大学等名	NO.	種別	大学等名	NO.	種別	大学等名	NO.	種別	大学等名
1	国立	北海道大学	1	国立	弘前大学	1	国立	岩手大学	29	私立	東京農業大学
2	国立	東北大学	2	国立	群馬大学 ※共同申請	2	国立	山形大学	30	私立	東京都市大学
3	国立	筑波大学	3	国立	千葉大学	3	国立	東京外国語大学	31	私立	神奈川大学
4	国立	東京大学	4	国立	東京農工大学	4	国立	東京海洋大学	32	私立	麻布大学
5	国立	東京工業大学	5	国立	電気通信大学	5	国立	お茶の水女子大学	33	私立	名城大学
6	国立	京都大学	6	国立	横浜国立大学	6	国立	一橋大学	34	私立	同志社大学
7	国立	大阪大学	7	国立	新潟大学	7	国立	富山大学	35	私立	立命館大学
8	国立	神戸大学	8	国立	金沢大学 ※共同申請	8	国立	静岡大学	36	私立	大阪医科薬科大学
9	国立	広島大学	9	国立	山梨大学	9	国立	名古屋工業大学	37	私立	関西医科大学
10	国立	九州大学	10	国立	信州大学	10	国立	豊橋技術科学大学	38	私立	産業医科大学
11	国立	東海国立大学機構	11	国立	三重大学	11	国立	滋賀大学	39	大共	高エネルギー加速器研究機構
12	公立	大阪公立大学	12	国立	岡山大学	12	国立	大阪教育大学	40	大共	情報・システム研究機構
13	私立	慶應義塾大学	13	国立	山口大学	13	国立	島根大学			
14	大共	自然科学研究機構	14	国立	香川大学	14	国立	徳島大学			
15	大共	国立情報学研究所	15	国立	愛媛大学	15	国立	高知大学			
			16	国立	長崎大学	16	国立	佐賀大学			
			17	国立	宮崎大学 ※共同申請	17	国立	熊本大学			
			18	国立	鹿児島大学	18	国立	大分大学			
			19	国立	琉球大学	19	国立	総合研究大学院大学			
			20	公立	横浜市立大学	20	国立	北陸先端科学技術大学院大学			
			21	公立	名古屋市立大学	21	国立	奈良先端科学技術大学院大学			
			22	私立	東海大学	22	国立	北海道国立大学機構			
			23	私立	東京理科大学	23	国立	奈良国立大学機構			
			24	私立	明治大学	24	公立	東京都立大学			
			25	私立	早稲田大学	25	公立	山陽小野田市立山口東京理科大学			
			26	私立	帝京大学	26	私立	帝京平成大学			
			27	私立	藤田医科大学	27	私立	芝浦工業大学			
			28	大共	人間文化研究機構	28	私立	東京医科大学			

※共同申請の連携機関

大学等名	連携機関名
群馬大学	茨城大学
金沢大学	福井大学、金沢医科大学
宮崎大学	東邦大学、南九州大学、九州医科大学、宮崎産業経営大学

<https://www8.cao.go.jp/csto/qaivo/>

※共同申請の連携機関

大学等名	連携機関名
群馬大学	茨城大学
金沢大学	福井大学、金沢医科大学
宮崎大学	東邦大学、南九州大学、九州医療科学大学、宮崎産業経営大学

直近、大学が共通に直面している課題 「データポリシー策定・即時OA義務化」

2025年度から新たに公募を行う競争的研究費制度による学術論文及び研究データの**即時オープンアクセス**の義務化

2027
2026
2025
2024
2023
2022
2021
2020
2019
2018
2017

2026年問題

義務化 100%

即時OA

データポリシー

機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、2025年までに、**データポリシーの策定率が100%になる。**

2025年7月10日
現在132校が
全文公開済み

利用増

オープンサイエンスの推進

研究データ

論文

NII RDC
の高度化7機能

ルール・ガイドライン
人材育成による全国展開

即時OA
事業

研究データ
エコ事業

継続的
な改修

利用者からのフィードバック

NII RDC3基盤の開発

事業の実施体制

中核機関

事務局担当
(専従PMの配置)



信頼性・再利用性・秘匿性の側面も考慮した上で、研究データの管理・蓄積・利活用・流通を実践するために必要となるNII RDCの高度化

運営委員会

- ・ 本事業の司令塔機能
- ・ チーム間の連携推進
- ・ 共同実施機関以外からの全国的な意見の取りまとめ
- ・ 各チームの進捗確認
- ・ 持続的事業戦略の立案 (将来構想チーム)
- ・ 海外の類似した活動との比較や連携についての検討

各チームからリーダを含む数名が参加

共同実施機関



実施内容は各機関で相互連携。事業の進捗状況に応じて共同実施機関を拡充



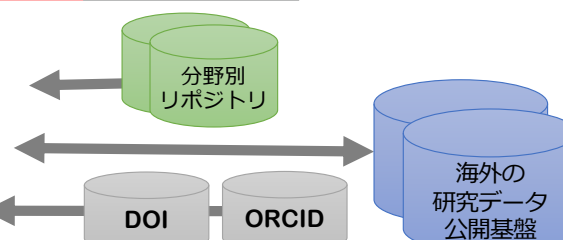
System of SystemsとしてのNII RDC

- 機関リポジトリ等に収載された**研究論文（国内研究者論文が中心）**、**研究データや図書等を検索するためのシステム**
- 研究者や所属機関、研究プロジェクトの情報とも関連付けた知識ベースを形成
- 研究者による発見のプロセスをサポート
- 現在、**年間1億3千万回以上** CiNiiを用いた検索が行われている（10.7億ページビュー）（2024年）

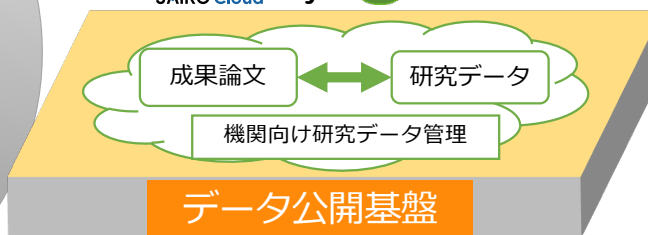
2004年8月：試行運用開始



データ検索基盤



2012年4月：運用開始



2021年2月：運用開始

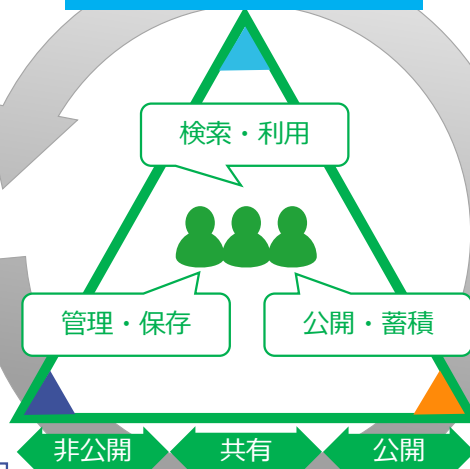
解析機能 118機関
学認LMS 140機関

GakuNin RDM
(Research Data Management)



データ管理基盤

- 研究遂行中の**研究データなどを共同研究者間やラボ内で共有・管理**
- 研究を進めながら適切にデータを管理することで、研究の促進や研究公正への対応を実現できる機能や、段階的な公開への準備を整えるための機能を提供
- データ収集装置や解析用計算機とも連携
- 現在、**184機関**が利用（2025年7月末現在）



長期保存対応ストレージ領域

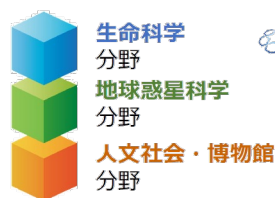
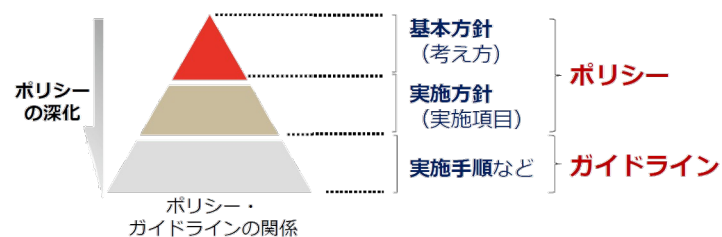


- クラウドを使った研究成果の公開サービス**
- データ管理基盤（GakuNin RDM）との連携により、簡便な操作で研究成果の公開が可能
- NIIは大学等に、JAIRO Cloudによる機関リポジトリ構築環境を提供しており、現在**799機関**が利用、**52機関**が公開準備中（2025年7月末現在）
- 大学等が活用することにより、研究論文や研究データの公開が促進されオープンアクセスを推進

ルールガイドライン・人材育成チームの活動

ルール・ガイドラインひな形

ポリシー／ガイドライン／分野への適応



糖鎖生命コア研究所

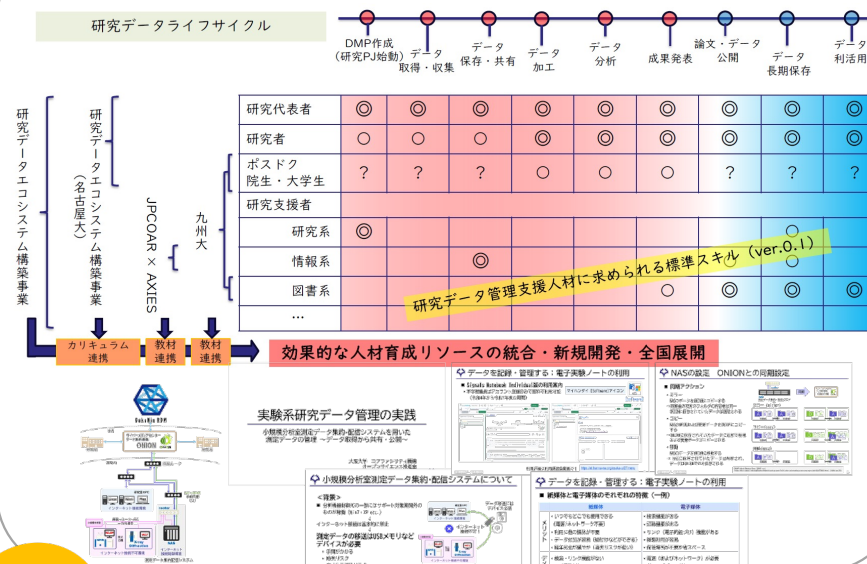


宇宙地球環境研究所



東海国立大学機構学術デジタルアーカイブ

教材＋人材育成



双方が連携した活動による相乗効果

融合開拓、PF連携チームの活動

プラクティスの育成

ユースケース創出課題 採択課題一覧

No	代表者	所属	課題名	カテゴリ
1	角谷 和俊	関西学院大学	学習者の批判的思考を促進するオンライン教育プラットフォーム構築の構築：異分野連携方式の開発と大規模教育コンテンツ研究データセットの活用推進	教育
2	早川 裕次	北海道大学	地球人間科学における 3D データ活用基盤の構築	環境
3	藤 結偉郎	東京大学	都市部における人流変容メカニズムの解明と予測モデルの構築	人流
4	喜屋武 享	琉球大学	観光人流データを用いた身体活動量の推定と時間的・社会的経済的関係から見た地域特性の解明：地域住民の健康増進に向けた活動量モニタリングシステムの開発	人流
5	佐藤 琴	山形大学	地域資料データの継承とオープン化を目指した地域構断型データ共有基盤の構築	地域
6	能地直子	京都大学	地域デザインのためのインクルーシブ・データプラットフォームの構築	地域
7	山下 俊介	北海道大学	地域文化資源データの共有のための汎用プラットフォームの開発	地域
8	伊藤 文人	東北大学	地域コミュニティを基盤とした国際コミュニティ・データベースの構築	地域
9	能勢 正仁	名古屋市立大学	研究データの可視化・検索性の向上を目指したメタデータ交換システムの開発と実装	システム
10	高須 淳宏	国立情報学研究所	インタラクションエンコードによる研究データ基盤構築探索システムの研究開発	システム
11	森田 敦郎	大阪大学	オープン・エスノグラフィ(GakuNin RDM)と連携したデータ管理ソフトウェアによる質的研究のコラボレーションとオープンデータ化の研究	システム
12	小村 正義	情報・システム研究機構	分野横断型データベースAMIDERの活用による次世代型データ活用スキームの構築	システム
13	木村 鉄雄	愛媛大学	国際的なRWD研究を実現する医療情報分析基盤の検討	医療・バイオ
14	吉岡 京子	東京大学	乳児の発音聴覚の発達と聴覚を自覚する異常判別AIとコミュニティスクリーニングシステムの開発	医療・バイオ
15	林 美加子	大阪大学歯学部附属病院	健康医療データの質を確保する安全安心な医療AIサービスプラットフォームの構築	医療・バイオ
16	守村 直子	法政医科大学	マルチスライス型重層脳画像の知識型データ共有エコシステムの構築：データ駆動型 脳科学を推進する共創型国際研究基盤	医療・バイオ
17	大橋 瑞江	兵庫医科大学	細胞フェノロジーの解明に向けた森林土壌の多地点自動解析システムの構築	医療・バイオ
18	加沢 知哉	東京大学	昆虫脳情報処理の研究基盤としてのマルチ解析プラットフォームの構築	医療・バイオ
19	安岡 孝一	京都大学	形態素解析・係り受け解析AIにおけるデータ管理とデモ環境の統合	人文
20	中村 寛	東京大学史料編纂所	Archimaticaを用いた人文データのキュレーションプロセスの自動化に関する試み	人文
21	菊池 信彦	国文学研究資料館	古典籍テキストデータを活用したデータ駆動型人文学のための研究資源構築プロジェクト	人文
22	尾上 陽介	東京大学史料編纂所	異分野共創による史料学DXの確立	人文
23	原 正一郎	京都大学	人文学DXを指向する情報基盤の構築	人文
24	大向 一輝	東京大学	人文学研究における「読み」を共有するためのデジタルアーカイブ構築・AI活用ワークフローの確立	人文
25	塚越 祐季	東京大学	複合文学文庫の統一デジタルアーカイブ化に向けたパイプライン構築	人文
26	中西 秀哉	核融合科学研究所	核融合研究データのオープンな活用基盤「プラズマ・核融合クラウド」の構築と整備	実験

https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html

研究基盤連携

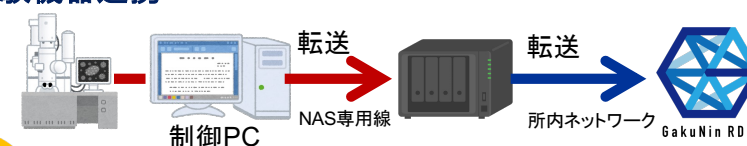
共通基盤連携



組織基盤連携



実験機器連携



NII RDCの有効活用と基盤連携による相乗効果

ユースケース創出事業 - 採択課題一覧【1/2】

https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html 2025年7月現在

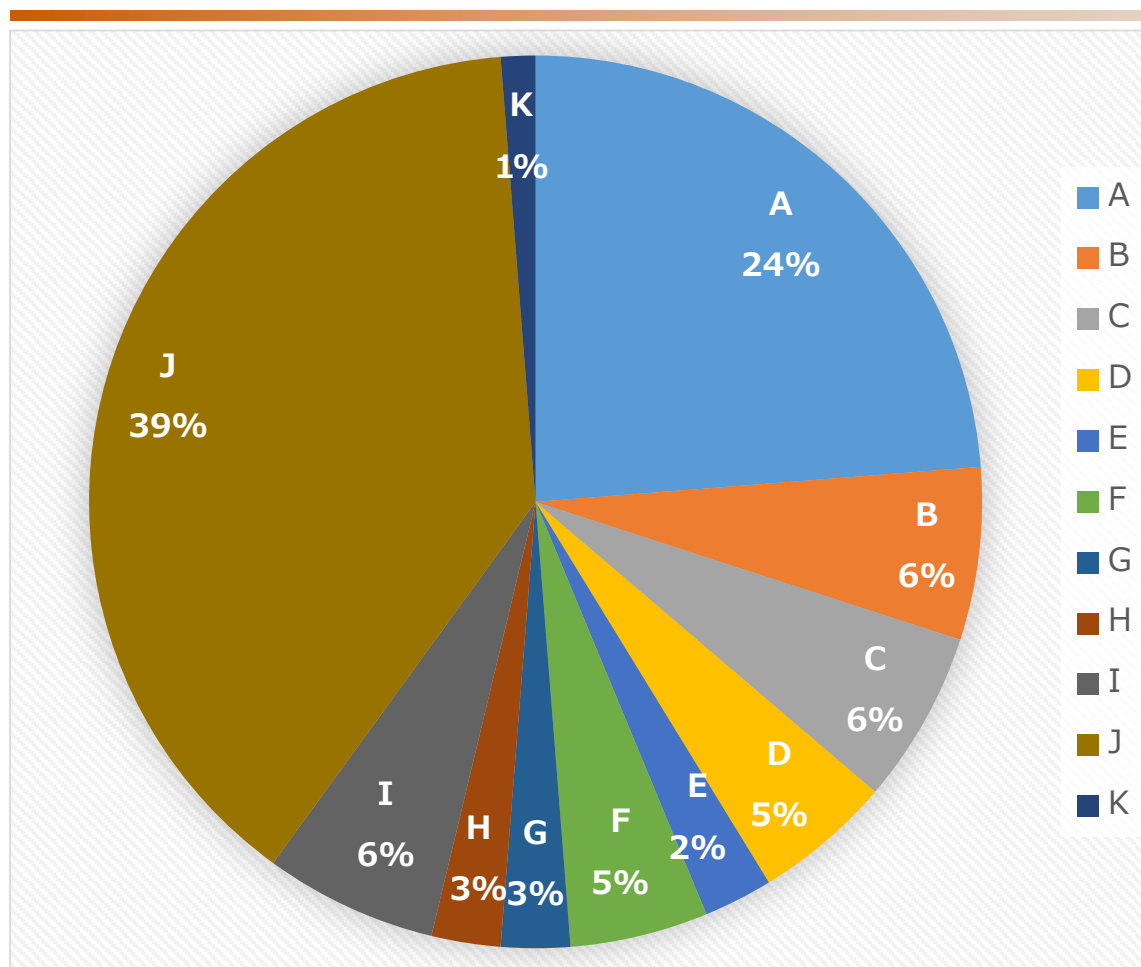
代表者	所属機関	課題名	分野	
黒嶋 敏	東京大学	共創型情報システムによる紙文化財の多角的解析と活用	A	D
尾上 陽介	東京大学	異分野共創による史料学DX の確立	A	E
徳地 直子	京都大学	地域デザインのためのインクルーシブ・データプラットフォームの構築	A	F
塚越 柚季	東京大学	楔形文字文献の統一デジタルアーカイブ化に向けたパイプライン構築	A	J
橋本 健広	中央大学	大規模言語モデルを使用した文学研究のための研究資源およびオーブンプラットフォームの構築	A	J
大向 一輝	東京大学	人文学研究における「読み」を共有するためのデジタルアーカイブ構築・AI活用ワークフローの確立	A	J
菊池 信彦	国文学研究資料館	古典籍テキストデータを活用したデータ駆動型人文学のための研究資源構築プロジェクト	A	J
山下 俊介	北海道大学	地域文化資源データの共創のための汎用プラットフォームの開発	A	J
佐藤 琴	山形大学	地域資料データの継承とオープン化を目指した地域横断型データ共有基盤の構築	A	J
中村 寛	東京大学	Archivematica を用いた人文学データのキュレーションプロセスの自動化に関する試み	A	J
森田 敦郎	大阪大学	オープン・エスノグラフィ:GakuNin RDM と連携したデータ管理ソフトウェアによる質的研究のコラボレーションとオープンデータ化の研究	A	J
小川 潤	国立情報学研究所	「行為」の構造化を軸とするデジタル・ヒストリー研究データと研究プロセスの接続に関する研究	A	J
宮川 創	筑波大学	LAJaR+ : 日琉語族を中心とする言語類型データベースのAI駆動型構築	A	J
早川 裕弐	北海道大学	地球人間圏科学における3Dデータ活用基盤の構築	B	F
飯野 孝浩	東京大学	テラヘルツ電波多波長観測データと学習・シミュレーションの融合による、月・小惑星表層構造リモートセンシング解析情報基盤の確立	B	J
中西 秀哉	核融合科学研究所	核融合研究データのオープンな利活用基盤「プラズマ・核融合クラウド」の構築と整備	B	J
中西 秀哉	核融合科学研究所	実験データのコンテキストを記述するメタデータ・文書等の共通スキーマ整備と相互参照用PIDの附与	B	J
小野 寛太	大阪大学	大規模実験データの計測・解析・共有・公開を通じた知の創出のためのエコシステム構築	D	J
華井 雅俊	東京大学	全国規模の材料データプラットフォームにおけるAIベース検索システムの構築	D	J
佐藤 和信	大阪公立大学	ESR装置群を基軸とする研究データ流通・利活用エコシステムの構築	E	D

ユースケース創出事業 - 採択課題一覧【2/2】

https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html 2025年7月現在

代表者	所属機関	課題名	分野
徳永 友花	東京大学	森林長期データを活用した分野横断的研究プラットフォームの設計	F J
大橋 瑞江	兵庫県立大学	細根フェノロジーの解明に向けた森林土壌の多地点自動解析システムの構築	F J
守村 直子	滋賀医科大学	マルチスピーシーズ霊長類脳画像の知識型データ共有エコシステムの構築:データ駆動型脳科学を推進する共創型国際研究基盤	G H
伊藤 文人	東北大学	地域コミュニティを基盤とした国際コミュニティ・データベースの構築	I A
吉岡 京子	東京大学	乳児の股関節脱臼の見落としゼロを目指す異常判別AIとコミュニティスクリーニングシステムの開発	I H
木村 映善	愛媛大学	国際的なRWD 研究を実現する医療情報分析基盤の検討	I J
林 美加子	大阪大学	健康医療データの質を保証する安全安心な医療AIサービスプラットフォームの構築	I J
喜屋武 亨	琉球大学	擬似人流データを用いた身体活動量の推定と地理的・社会経済的環境から見た地理的地域特性の解明:地域住民の健康増進に向けた活動量シミュレーションシステムの開発	I K
安岡 孝一	京都大学	形態素解析・係り受け解析AIにおけるデータ管理とデモ環境の統合	J A
原 正一郎	京都大学	人文学DXを指向する情報基盤の構築	J A
角谷 和俊	関西学院大学	学習者の批判的思考を促進するオンライン教育アクセス基盤の構築: 質問応答支援方式の開発と大規模教育コンテンツ研究データセットの利活用推進	J A
高須 淳宏	国立情報学研究所	インタラクションエンコードによる研究データ基盤横断探索システムの研究開発	J A
大向 一輝	東京大学	専門家・市民・AIの協働によるデジタルアーカイブ構築に向けたデータプロビナンス基盤のデザイン	J A
能勢 正仁	名古屋市立大学	研究データの可視化・検索性の向上を目指したメタデータ変換システムの開発と実装	J B
松平 拓也	金沢大学	コアファシリティにおける研究データ管理アーキテクチャの構築	J C
山田 裕久	奈良工業高等専門学校	高専における分析データ集約・配信モデルシステム構築	J C
蕭 耕偉郎	九州大学	都心部における人流変容メカニズムの解明と予測モデルの構築	J C
近堂 徹	広島大学	AIOps によるネットワーク運用効率化に向けたデータ駆動型共有ナレッジベースの構築	J C
小川 康一	群馬大学	衛星コンステレーション観測データ共有基盤の開発	J C
小財 正義	情報・システム研究機構	分野横断型データベースAMIDERの活用による次世代型データ利活用スキームの構築	J G

ユースケース創出事業 - 採択課題分野



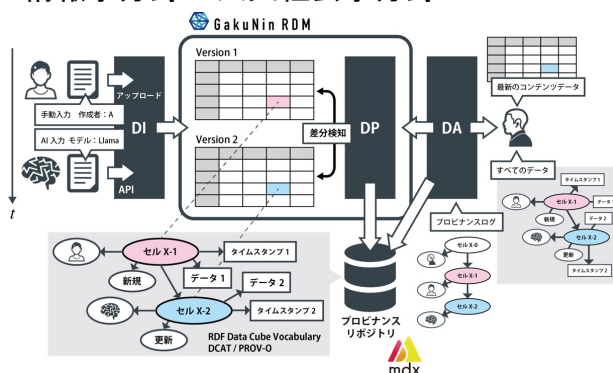
累計40（延べ42件）件の採択テーマの応募内容から、関連性が高い「研究分野」の上位2区分を集計し、その割合を示している。情報学分野（J）が多いのは当然として、人文社会科学分野のテーマ（A）が多く採択されていることは特徴的である。

大区分	分野名
A	人文社会科学分野
B	数理・物理・地球宇宙科学分野
C	工学分野
D	応用物質・エネルギー工学分野
E	化学・材料科学分野
F	農学・生物資源科学分野
G	生命科学・生物学分野
H	医薬生命科学分野
I	医学・医療科学分野
J	情報学分野
K	環境科学分野

各分野に含まれる研究領域は以下の通り：
<https://www.kaken.jsps.go.jp/kaken1/daichukubunList.do>

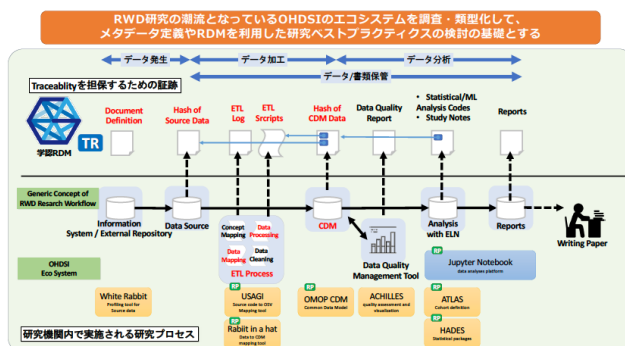
利活用の好事例を形成・異分野融合への展開（例）

情報学分野 x 人文社会学分野



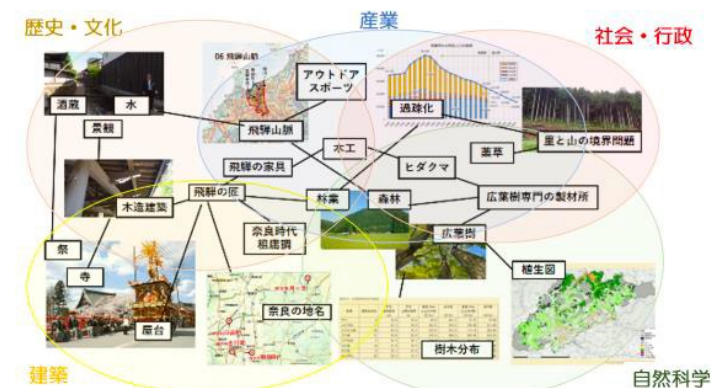
専門家・市民・AIの協働によるデジタルアーカイブ構築に
向けたデータプロビナンス基盤のデザイン

医学・医療科学分野 x 情報学分野



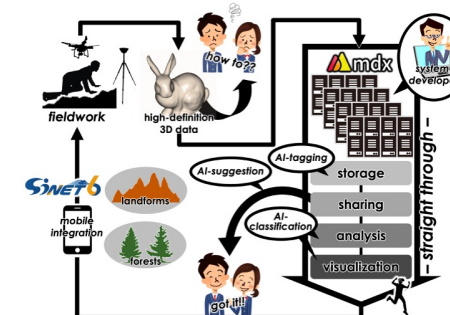
国際的なRWD 研究を実現する医療情報分析基盤の検討

人文社会科学分野 x 農学・生物資源科学分野

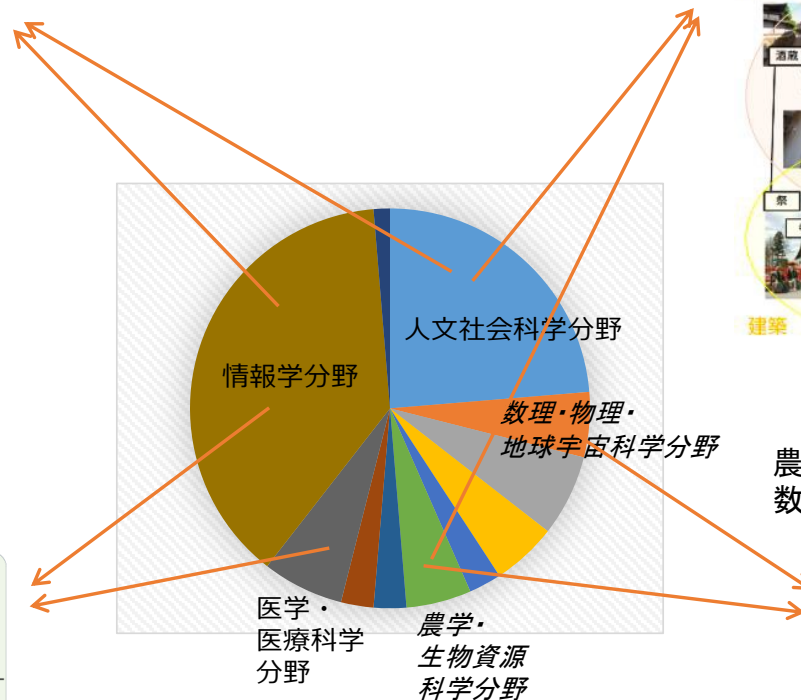


地域デザインのためのインクルーシブ・データプラットフォームの構築

農学・生物資源科学分野 x
数理・物理・地球宇宙科学分野



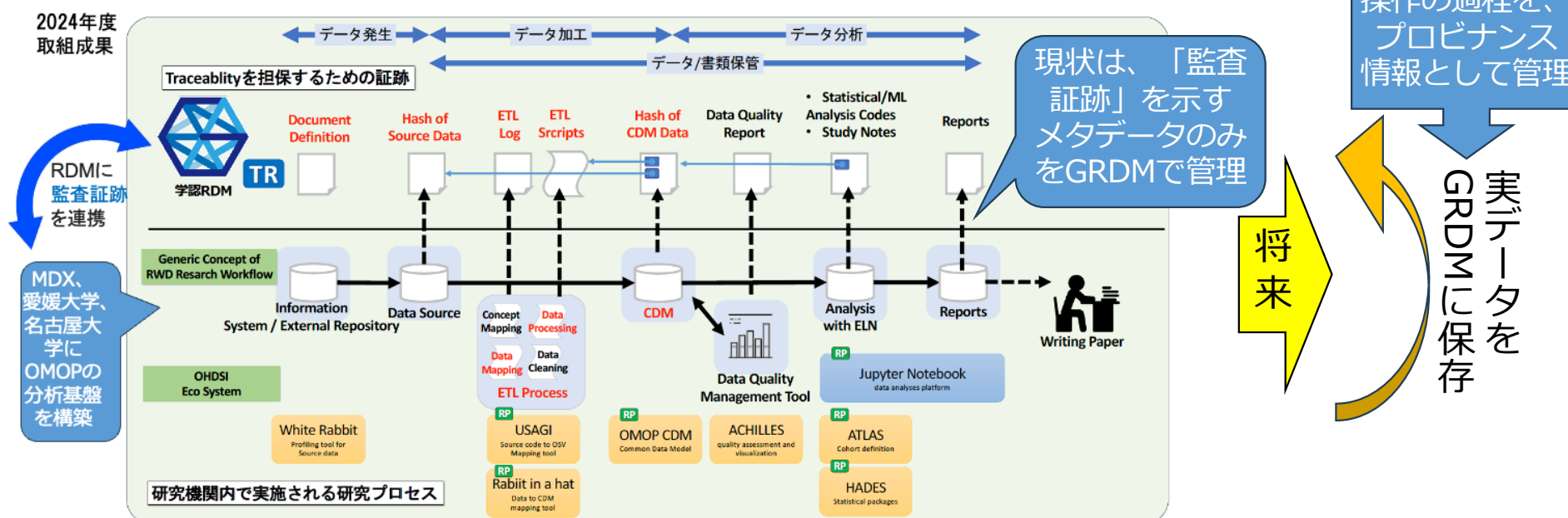
地球人間圏科学における3Dデータ活用基盤の構築



プロビナンス機能活用の将来構想を見据えた検証

ユースケース課題：「国際的なRWD研究を実現する医療情報分析基盤の検討」

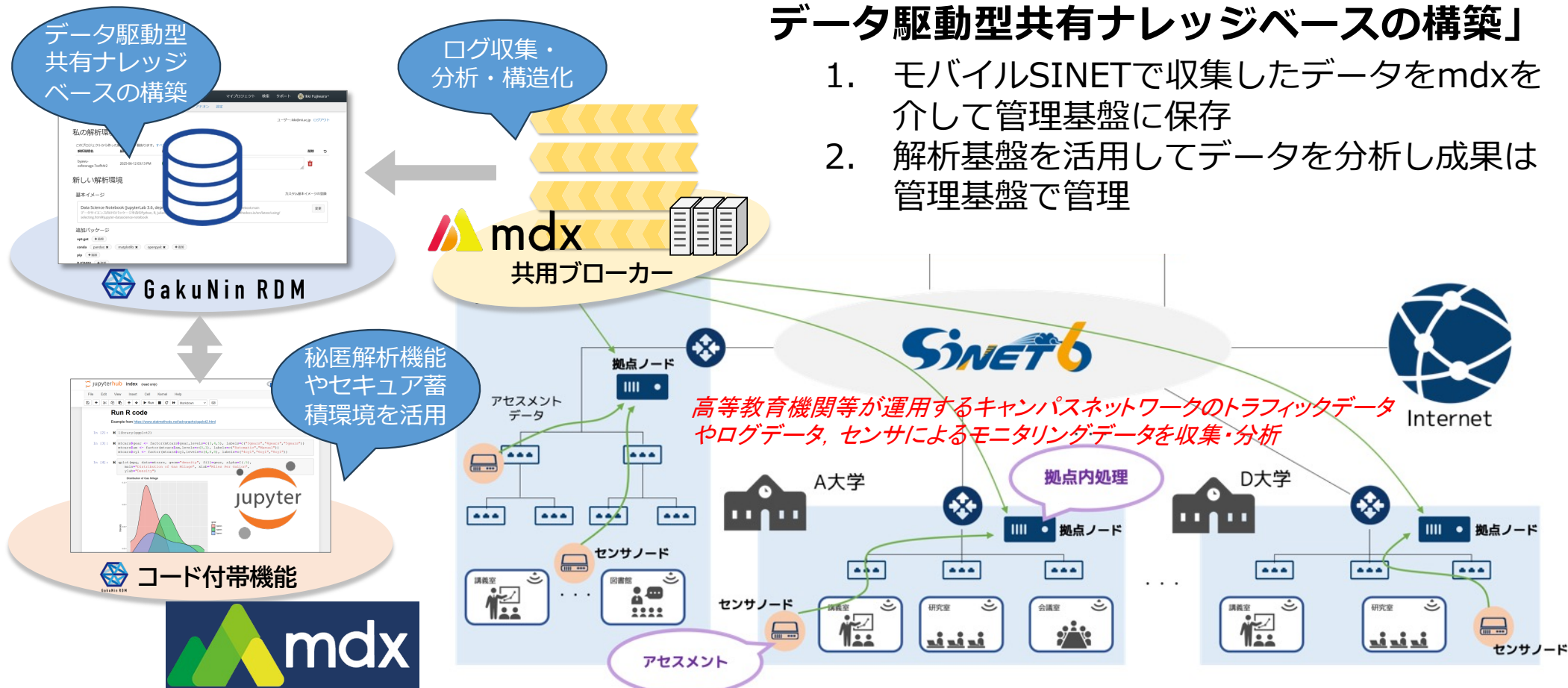
1. 管理基盤で、医療用共通データモデル分析過程の監査証跡情報を管理しトレーサビリティを担保
2. 将来的には、実データを管理基盤に保存しプロビナンス情報を管理することによりデータのトレーサビリティ管理の向上性を確保



コード付帯機能の活用事例

ユースケース課題：「AIOpsによるネットワーク運用効率化に向けたデータ駆動型共有ナレッジベースの構築」

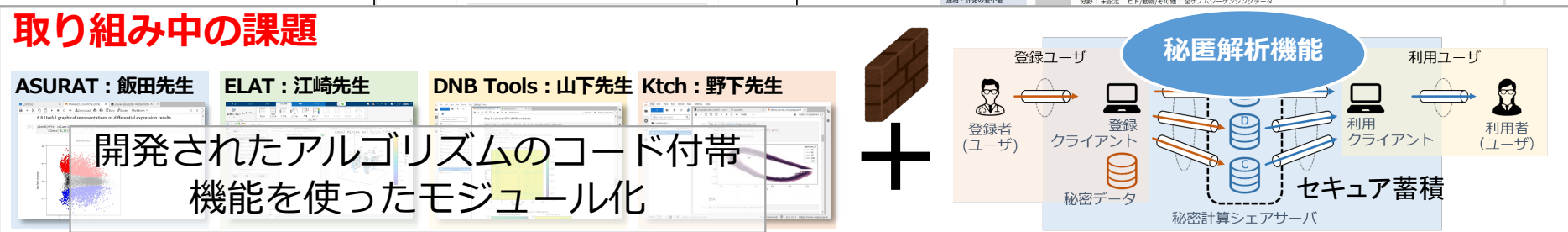
1. モバイルSINETで収集したデータをmdxを介して管理基盤に保存
2. 解析基盤を活用してデータを分析し成果は管理基盤で管理



秘匿解析とセキュア蓄積の活用に向けた実証実験

ムーンショット目標2：包括的未病データシステムの構築

1. 開発されたアルゴリズムをコード付帯機能で再利用性を向上させプロジェクト内外での共同研究の発展を促進
2. 秘匿解析とセキュア蓄積を活用して機密性の高いデータの管理・解析事例を構築中

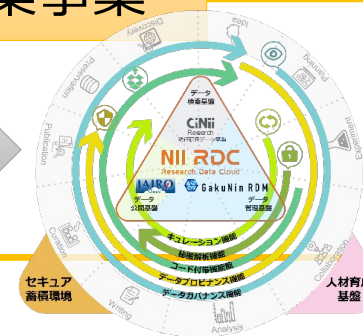


研究データ管理スタートアップ支援事業

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業

NIIと大学・研究機関が強力的に連携して以下の事業を実践

- 研究データ基盤の更なる**高度化**
- 多角的なアプローチにより研究データ基盤の**全国展開**



2024年度開始済：

- 中国四国地区（広島大学）
- 九州沖縄地区（九州大学）

2023年度開始済：

- 東海地区（名古屋大学）
- 北陸地区（金沢大学）

2025年度開始：

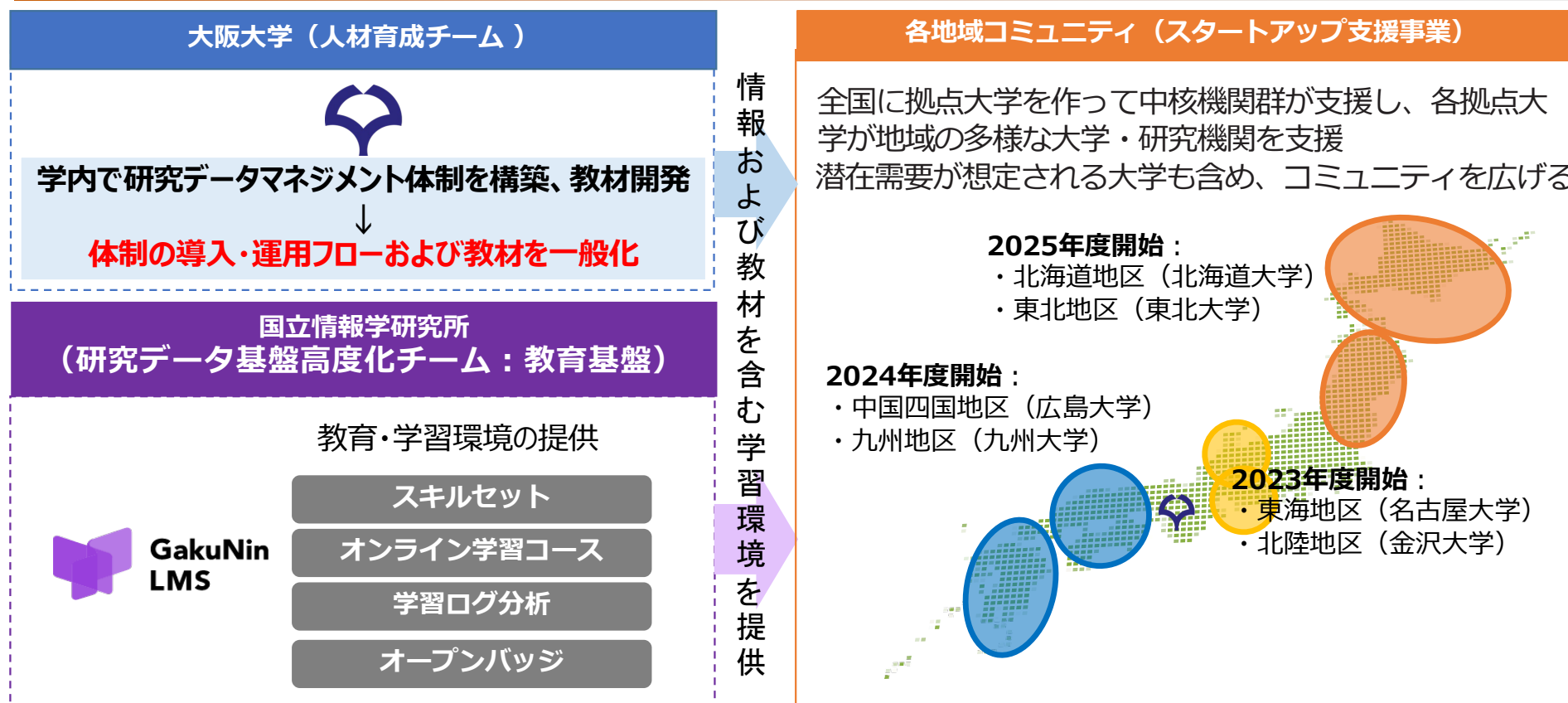
- 北海道地区（北海道大学）
- 東北地区（東北大学）

活動内容

- コンソーシアム設立
- セミナー開催
- 支援チームの派遣
 - * データポリシー策定
 - * セミナー講師派遣
 - * 学内アンケートの実施・分析

NII RDCの全国的展開を強力的に支援する地域の支援団体が発足し協働して事業を推進

全国展開につながる、ネットワーク／コミュニティを形成 - 研究データポリシー策定支援に始まり、人材育成との連携へと展開中 -



基盤高度化チームは大阪大学内の教材開発に対し、NII開発の複数の教材作成用のツールを提供。一般化された教材の普及として、学習ログ分析/バッジ発行を含む学認LMSを核とした学習環境を提供。

各地の地域コンソーシアム

<https://www.nii.ac.jp/creded/start-up.html>

研究データエコシステム北海道コンソーシアム

AI & Research Data Ecosystem Hokkaido Consortium

ホーム ニュース 概要 イベント リンク お問い合わせ 会員登録

利用規約
コンソーシアム会員
コンソーシアム入会希望
イベント参加希望

目的
北陸研究データ基盤コンソーシアムとは
これまでのイベント
これからのイベント
コンソーシアム会員機関一覧
入会申し込み

北陸研究データ基盤コンソーシアム

利用規約
コンソーシアム会員
コンソーシアム入会希望
イベント参加希望

目的
北陸研究データ基盤コンソーシアムとは
これまでのイベント
これからのイベント
コンソーシアム会員機関一覧
入会申し込み

研究データエコシステム北海道コンソーシアム設立シンポジウム

TOHOKU CONSORTIUM
AI & RESEARCH DATA ECOSYSTEM

Home 概要 News イベント 会員登録 LINK もっと見る

研究データエコシステム 東北コンソーシアム

学術機関が相互に連携することで、研究データエコシステムの構築を東北地域に整備し、その普及と利便性を目的とした活動を行います。

研究データエコシステムとは
このたび、国立研究開発法人(NRI)が中核機関として活動する「AI研究の活用を促進する研究データエコシステム構築事業」のうち、研究データエコシステム構築事業の東北地区の拠点として、「研究データエコシステム東北コンソーシアム」を設立しました。

主な活動内容
(1)会員又は会員が所属する学術研究機関の研究データポリシーの策定と、その運用のための体制整備などに関する情報交換
(2)学術研究機関における研究データの管理・公開・利活用に関するセミナー開催

News & TOPIX
2025年6月8日 北海道コンソーシアムリンク集
2025年6月1日 事務局運営体制のお知らせ
2025年6月1日 HP開設

イベント
会員募集
会員募集一覧(募集中)

会員規約
他地域のコンソーシアム
その他のお知らせ

お問い合わせ
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区外2-1-1
研究データエコシステム 東北コンソーシアム事務局
東北大学情報科学センター3F 3F 3F
E-mail: rde-consortium-office@igp.tohoku.ac.jp
※メールアドレス(※)を必ずご記入ください

名古屋大学の学術データ管理・公開・利活用

HOME > 研究データエコシステム 東海コンソーシアム

学術の方へ

研究データエコシステム 東海コンソーシアム

学術機関が相互に連携し協力することで、研究データエコシステムの構築を東海地域に整備し、います。

コンソーシアム会員募集
東海地域を中心に大学や研究所など、当コンソーシアムの趣旨に賛同し共に活動頂ける学術機関を随時募集しています。東海地域でなくてもご入会頂けます。

コンソーシアム
東海地域を中心に大学や研究所など、当コンソーシアムの趣旨に賛同し共に活動頂ける学術機関を随時募集しています。東海地域でなくてもご入会頂けます。

イベントの開催
会員機関による情報交換やノウハウ共有を目的としたセミナーを定期的に開催するほか、他団体と連携会などを開催します。また、会員機関が主催するイベントを発見していきます。

会員向け事業
研究データポリシー策定等の推進チームの選出(人材、教材、データ)を進めます。

全国の地域コンソーシアム
研究データエコシステム構築支援事業における「研究データ管理スタートアップ支援事業」のもと、全国で地域コンソーシアムの活動が進んでいます。

会員向けページ (会員限定)
コンソーシアム会員向けに、支援事業の募集要項、イベントのアーカイブ、コンソーシアム活動成果、などの会員限定コンテンツを用意しています。

研究データエコシステム 中国四国コンソーシアム

ホーム 本コンソーシアムについて イベント 会員機関一覧 会員登録 会員組織決定

TOP

研究データエコシステム 中国四国コンソーシアム

学術機関が相互に連携し協力することで、研究データエコシステムの拠点を中国・四国地域に整備し、その普及と利便性を目的とした活動を行います。

お知らせ
2025/2/13 (2025/3/13) 第2回シンポジウムを開催します
2024/10/31 (2024/11/29) 中国四国コンソーシアム設立シンポジウムを開催します
2024/10/31 本サイトを開設しました

各大学からのお知らせ
2025/2/25 (2025/3/12) 広島大学/オープンアクセス加速センター
2025/2/14 (2025/3/5) 山梨山梨市立山口東山梨県立大学/オープンアクセス加速センター

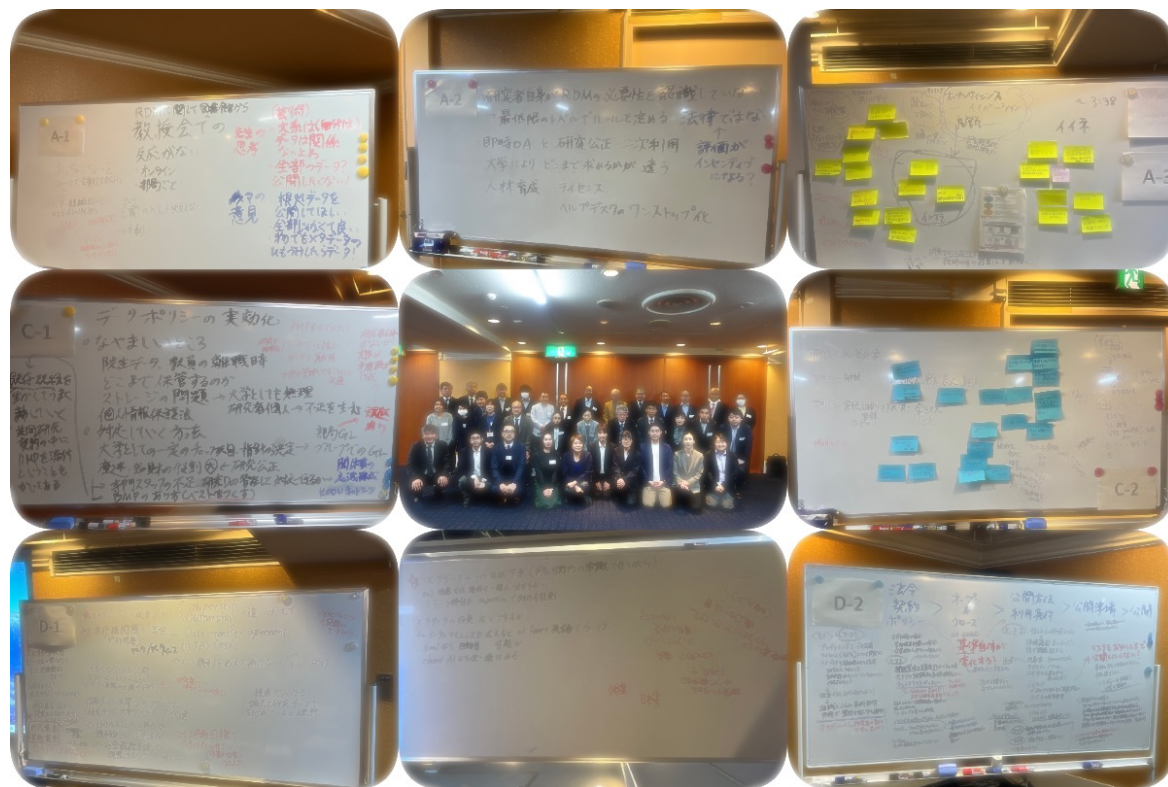
本コンソーシアムについて
本コンソーシアムでは研究データの管理・公開・利活用を支援することを目的として、各機関のルールづくりやそれを支える基盤システムの開発・共同利用を推進します。

コンソーシアム会員機関
中国・四国地域を中心に大学や研究所などの学術機関、あるいは、学術機関に属する部署が入会しています。研究会ならびに運営会議での承認、立案により活動が推進します。

イベントの開催
会員機関による情報交換やノウハウ共有を目的としたセミナーを定期的に開催するほか、他団体と連携会などを開催します。また、会員機関が主催するイベントを発見していきます。

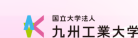
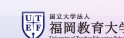
コンソーシアム会員募集
中国・四国地域を中心に大学や研究所など、当コンソーシアムの趣旨に賛同し共に活動頂ける学術機関を随時募集しています。中国・四国地域でなくてもご入会頂けます。

ワークショップ@KOOU研究データ管理・利活用WG



沖縄オープンユニバーシティ
OKINAWA OPEN UNIVERSITY

HOME KOOUについて 連携事業 トピックス 各大学からのお知らせ



KOOU

KYUSHU
OKINAWA
OPEN
UNIVERSITY

研究データエコシステム構築事業 シンポジウム

- AIとデータ基盤がつなぐ、多様な知の最前線 -

2025 | 10月 9 日(木)
10月10日(金)

本シンポジウムでは政策的な観点と利用者の視点の両面からエコシステムの構築に向けて議論。

- 本事業ユースケース創出課題として採択された多彩な研究テーマの紹介
- 研究データ基盤の利用に関する知見やシステム改善の提言、本事業への要望
- 本事業の中核機関群の取り組み状況

研究データ基盤に関心を持つ大学等の機関の方に、本事業の最新状況と目指す姿をお伝えします。

どなたでもご参加いただけますので、ふるってご参加ください。

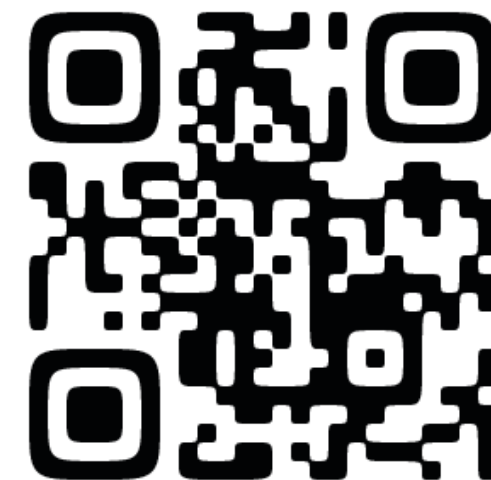
研究データエコシステム構築事業シンポジウム2025

10月 9 日(木) 13:00 ~ 18:30 (情報交換会 : 18:30 ~)

10月10日(金) 10:00 ~ 15:00

ハイブリッド開催

(一橋講堂・中会議場(学術総合センター2階) 及びオンライン)



<https://rdes.rcos.nii.ac.jp/>

シンポジウム終了後、技術交流会（GakuNinRDMやmdxの使い勝手の改良や要望などについて）を予定しています（現地参加【NII会議室】のみ）。ご関心ある方は併せてご予約ください。

NII Today 104号（2025年1月発刊）



<https://www.nii.ac.jp/today/>

「AI等の活用推進」に向けて

事業開始時（2022年7月）に想定されていたのは：

「AIやデータ駆動型研究などを含んだ複数のシーズ・ユースケース」の確立。

一方ChatGPTの公開（2022年11月）を機に、「AI活用」の意味は従来と全く異なる次元へと移った。

この「AI」の中核はLLMであり、その品質向上には、良質で大量のデータが不可欠。

本事業は、そのデータ整備という意味でも大きな役割を担うこととなった。



Please feel free to contact me anytime.

nakano@nii.ac.jp

https://researchmap.jp/nakano_keiichi